

第16回 SC サテライト放送株式会社 番組審議委員会 議事録

1. 開催日時： 2023年12月8日(金) 14時00分～15時30分

2. 開催場所： ショップチャンネル本社ビル、および Teams

3. 審議委員出席者：

委員総数 6名

出席委員の氏名 音 好宏氏(委員長)・入江 たのし氏・五井 千鶴子氏・
棚橋 節子氏・桧山 珠美氏・細川 幸一氏

4. 事業者側出席者：

SC サテライト放送株式会社

代表取締役社長	佐々木 良太
取締役	星野 友昭
メディア営業部長	濱田 哲史
技術部長	風早 隆一郎

日本テレビ放送網株式会社

報道局 総合ニュースセンター	井田 雅子
----------------	-------

株式会社 CS 日本

編成局次長 NEWS24 編成部長	福本 径
-------------------	------

ジュピターショップチャンネル株式会社

販売企画本部長	江原 由美
エンターテインメント&プロダクション本部	
エグゼクティブプロデューサー室 室長	川村 亜希子

5. 番組審議：

-
- ch名：「ショップチャンネル4K」(BS11ch)、「ショップチャンネル」(055c)
 - 審議番組：ダジュール 楽しさと安心ファッション
 - 放送日時：2023年10月3日(木) 9:00～10:00
-

● 審議委員意見

- ・ 非常に楽しく番組を拝見した。(番組内での)ゲストさんのお着替えが、まるで歌舞伎のように非常に速かったので驚いた。
- ・ 対面販売ではコーディネートというのは一般的だと思うが、テレビ通販番組の中でも様々なコーディネートを紹介している点は非常に大切なことだと思う。
- ・ (洋服のみならず)スカーフやベルトなどの小物の紹介もつけ加えた方が、より購買意欲が高まるのでは、と感じた。

- 各々の商品のサイズ紹介が非常に詳しいものだったがゆえに、かえって数字の羅列のように感じてしまい、頭に入ってこなかった。
- 自分のサイズを把握していても、数字を細かく説明されることで、このサイズでよかったのかな、という気がしてしまったので、サイズの紹介方法は少し検討した方がよいのではと感じた。
- モデルの方のスタイルがよすぎるため、あまりヒントにならなかったが、番組の進行役が自身の身長を伝えていたのが、非常に具体的でわかりやすかった。
- ネットで購入すると 1,000 円引きという表現があった。番組内で 9 商品紹介していたが、9 点全て購入した場合は合計 9,000 円の割引となるのかどうか、という点がわかりづらかった。
- ロングカーディガンの紹介の際に、ワンピースを合わせたりと、次のコーディネートにさりげなく繋げていて、複数の商品をお買い求めいただけるような提案や、着回しの提案がとても上手いな、と感心した。
- ”パワーネット”などのファッション用語単語が当然のように使われていたが、視聴者がその単語を知っているのか、という点については、一度吟味した方が視聴者にとって優しいのかな、と思った。
- ワンピースのサイズ紹介のところで、歌詞付きの音楽が流れていて、音量は割と小さめだったが耳についてしまった。この点、サイズの説明をきちんと聞いてほしいのであれば、工夫が必要では、と感じた。
- 今回の番組はファッションということもあり、(男性である)自分にはなかなか刺さらなかった。
- ゲストの方が、”杓調”という単語をよく使っていたが、何を意味するのかわからず、非常に気になった。
- 家で洗えるかどうか、製造国がどこなのか、という 2 点が気になるため、視聴者が確認できるよう、わかりやすい洗濯の絵表示と製造国の表示があるとよいな、と思った。
- モデルさんが着用することで洋服をきれいに見せたい、ということもあるのだろうが、商品には色々なサイズがあるので、このくらいの人はこのサイズがよいなど、説明にサイズ感を入れてほしいと思った。
- 番組内で 9 商品を紹介していて、さらに各々の商品に様々な色とサイズがあることから、注文アイテム数が相当な数となり、コールセンターの対応が大変なのではと思った。
- 素材表示について、素材が 3 種程度で表示スペース的にも余裕があると思われる商品でも、”アクリル他”の表記に留まっていた。
- 男性の自分からすると、女性向けの単語が分からない分、どういう意味だろうと思っていると次の話にいつてしまうので、理解がなかなか追いつかなかった。

- ・ 色違いや型違いなどの情報があった方が楽しめると思うものの、今回の番組では紹介するアイテム数が多い分、語り口調が少し早めだったので、そのあたりの塩梅がすごく難しく感じた。
- ・ 商品の説明はすごく丁寧で、そこはさすがだなと思った。

●事業者発言

- ・ 皆様のご意見をうかがい、我々が理解している単語でも、視聴者の方にとっては聞き慣れない単語だという点を含め、色々と勉強になった。
- ・ 雑誌などでよく使われているような基本的なファッションの用語というのはそのまま使いたいところではあるものの、そのあたりのバランスをとるのが本当に難しいと思った。
- ・ 新しいお客様にも番組をお楽しみいただきたいと非常に強く思っているところで、そのためにはわかりやすい番組づくりを心がけなければならない、とあらためてご指摘をいただいたと感じた。
- ・ 番組冒頭で紹介があったとおり、WEB サイトにおいて当社社員が商品を実際に着用することでサイズ感などを参考にして頂く取り組みなど、今後も番組上はもちろんのこと、番組以外の WEB サイトなどでも常に分かりやすい表示を心がけたい。番組内で”初めてネットからご購入の方は 1,000 円引き”とのご案内をしているが、適用されるのは初回購入時の 1 回限りとなっている。番組で伝わりづらい部分があれば、表記方法を変える、や、冒頭の説明に必ず入れる、というようなことを検討していきたい。
- ・ 素材や生産地表記につき、番組内で必ず一度は表示するようにしているが、視聴者の方が見逃してしまう可能性もあり、また必ずしも読み上げる時間があるとも限らないため、難しいところではある。
- ・ 商品群によっては、例えば調理器具などを紹介する番組では、商品に様々な機能があるため、1 時間を通して 1~2 商品を丁寧に説明することを心がけているものの、ファッションをご紹介する番組では、様々なコーディネーションを想像膨らませながら見ていただくということも非常に大切な要素になり、楽しい番組を、という観点からも、今回のように多くの商品をご紹介していくのは重要であると考えます。
- ・ ただ一方で、商品の説明として足りないところがないようにという点については、引き続き、商品買い付け担当も含めて、確認・検討していかなければならない部分かなと思う。
- ・ やや早口に聞こえるという点、またサイズ説明時の歌詞付き BGM が気になるというご指摘については、担当部門と改善を検討したいと思う。

-
- Ch名： 「日テレNEWS24」(349ch)
 - 放送日時： ①10月9日(月)20時00分～20時30分
「鉄道再考 緊急企画・いすみ鉄道編」
② 10月14日(土)10時00分～10時30分
皇室日記@日テレNEWS24」
-

● 審議委員意見

<皇室日記>

- ・ 『皇室日記』の番組内で、解説委員による今後の皇室への在り方への言及があったが、これだけ取材をなさっているのであれば、もっと声を大にして発信してもよいのでは、という気がした。
- ・ 『皇室日記』のように、メディアが取材を続け、映像に残すことは、様々な意味で未来の人たちへの財産になるんだろうなと思い、この『皇室日記』も意味のあるメディアの仕事なんだなと思った。

<鉄道再考>

- ・ 『鉄道再考』について出演していたアナウンサーがいすみ鉄道の社長にお電話したり、(インタビューに応じていたいすみ鉄道の新入社員を)入社前にも取材していたりなど、非常に継続的に取材を続けているなど感心した。新聞で12月20日を目途に全線開通という記事を読んで、また番組でとりあげられるのか、気になっている。
- ・ 名前は知っているものの、乗ったことのない路線というのは多くあると思うが、それぞれにエピソードや思いが込められてるということを取材してくださったことで、とても身近に感じ、これからも続けていただきたいな、と思った。
- ・ 『鉄道再考』に出演していたアナウンサーは、鉄道クラブにご所属とのことで、エキスパートな人がいることで、細かい部分まで取材が行き届き、視聴者にわかりやすい番組になっていると感じた。
- ・ いすみ鉄道が大きな被害を受けたことは記事で読んでいたものの、いすみ鉄道のみならず、日本全国様々な場所で被害が出ていることもあり、いすみ鉄道のその後については把握していなかったが、『鉄道再考』シリーズの中で、災害のその後を追い、現状はどうか、なぜこうなったのか、というのを分かりやすくみせてくれていて、とても意義のある番組だなと思った。
- ・ 今回、『鉄道再考』を視聴できたのは大きな収穫で、関東圏の放送局は、ややもすると東京中心になりがちなところ、あの千葉のいすみ鉄道にフォーカスをし、なおかつ、いすみ鉄道に入社しようとしている高校生にまで取材していることに身震いした。
- ・ 日本人は鉄道が好きな人が多いということと、生活に密着しているということもあり、『鉄道再考』のような番組はよいと思うが、今回視聴したような番組を、なぜ日テレNEWS24のみで放送して、地上波では扱わないのか、という点が気になった。

- ・ ニュース一つ一つについては、ユニットを大事にした形での繰り返しのニュースになっているが、今回『鉄道再考』を視聴して、24時間のニュースチャンネルであるがゆえに、特集や調査報道などといった長尺ものを織り込むことも一つのやり方なのではと感じた。

<その他>

- ・ 経済学賞の受賞や白バイ隊の運転競技会など、日頃あまり関心のない分野のニュースもあったが、興味深く知ることができた。
- ・ 先日、長時間日テレ NEWS24 を視聴する機会があった。通常は、新しくニュースが入れば都度差し替えるのだろうが、その日はたまたまなのか、30分単位で同じ番組が繰り返されていた。日テレ NEWS24 が24時間放送していることを謳っていることから、長時間の視聴を想定しているのであれば、同じ番組が続くと飽きてしまいかねず、工夫が必要ではと感じた。どのような視聴者のスタイルを想定して、日テレ NEWS24 を設計しているのかをうかがってみたい。
- ・ 日テレ NEWS24 で放送される地域に特化したニュースは、数多くあるものから選んでいるのだと思うが、 そうだとしたら、もう少しバラエティをつけるなどして、地域に特化したニュースだけは1番組を2時間程度にするなどしていただくと、また同じニュースが流れているという印象にはならないのでは、と思った。
- ・ 審議対象番組が放送された10月9日は伊豆諸島の鳥島近海を震源とする地震があり）テロップで津波速報が出たものの、ニュースとしては出てこなかった。全国メディアであるため、注意喚起の観点から、1つでもニュースは入れたほうがよかったのかなと感じた。地震や津波が発生した際、注意喚起を行う基準や運用などを含めた報道体制についてうかがいたい。

●事業者発言

- ・ いすみ鉄道のように、災害を受けたものの復旧に多額の費用を要してしまうため、なかなか復旧に辿り着けないような路線について、現地の人の声や、現地に密着して取材している記者との声を拾い上げて東京とつなぐことが、今回の『鉄道再考』の企画意図であった。12月末の復旧に向けては、鋭意取材をしているところである。
- ・ 『鉄道再考』の過去の放送では、福島の只観線、広島芸備線、熊本の南阿蘇鉄道など、計8鉄道をご紹介している。南阿蘇鉄道のように、地方鉄道の取材を経て、深夜のNNNドキュメント（日本テレビが制作・放送するドキュメンタリー番組）に昇華した路線もある。
- ・ 『皇室日記』に出演している井上解説員は、非常に昔から皇室の取材をしていて、知識も豊富ということから解説員を務めている。弊社では皇室の映像に留まらず、かなり昔の映像のライブラリーがあり、これらをただの映像ではなく、資産としてとらえており、可能なかぎり視聴者の皆様に還元して公開していきたい、と思っている。

- 今後の皇室の在り方について、声を大にして言わなければならない、というご指摘があったが、誠にそのとおりと考えている。女性皇族の今後の在り方を含め、皇位継承問題の安定化をどうすべきか、などの問題について、今回の番組内では、これらの問題は時々話題になった際には新聞やテレビで報じられるものの、その後空気が収まってしまい、最近そうした議論がなかなか進んでいないとの問題提起もしている。近々この問題についても大きく、きちんと取り上げていかなければならないという話は、今後放送の中で反映させていきたい、と考えている。
- 今回審議いただいたような番組を、日テレ NEWS24 のみならず、地上波でも放送していくことも重要では、というご指摘についてはごもっともです。日本テレビ報道局としても、2024年4月以降、どのような報道体制でどのようなニュースを伝えていくかということにつき現在検討しているため、そちらに反映できればと思う。
- 日テレ NEWS24 は、働いている世代や官公庁でよく視聴されていることから、視聴者層は大人の方にご視聴いただいているのではと考えている。地上波では、番組の時間帯により視聴者層が定まってしまう傾向にあるが、日テレ NEWS24 は 24 時間放送ということもあり、むしろ視聴者層を区切らず放送している。
- 「番組をあまり更新することなく、30 分ループで放送しているというご指摘については、ニュースがある場合は随時差し替えているものの、場合によっては地方局の人手不足や、ニュースがあまりないことなどにより、同じニュースがループされてしまうこともある。新たなニュースを入れるべく、地方局とのやりとりも十分に行うよう、現場にも指示していきたいと思う。
- 津波表示については、気象庁から情報が出た時点で字幕スーパーでお知らせする運用となっており、基本的に注意報や警報が解除になるまで放送している。注意報以上である場合は、画面右側に日本列島の地図を表示した上で、対象エリア、津波到達予測時刻も表示するなどして、注意喚起している。
- キャスター、アナウンサーなどが参加する研修会を開催したり、原稿の見直し・改善するなどして、どのような伝え方であれば視聴者の方により届くのか、わかりやすくなるのかというのを、日々更新している。